

## 南アルプス：仙丈ヶ岳

- ◆日程 2022年4月16日(土)~17日(日)  
◆メンバー L: OT

春合宿に備えて体力トレーニングが必要だ。

仙丈ヶ岳にはこの雪シーズンのうちに行っておきたいと考えていたが、先送りになっていた。報告例の多い北沢峠経由だと2泊必要である。1泊で往復するには報告例が少ない地藏尾根の一択だ。しかも黒戸尾根のように長大ときている。これを単独でやることで、経験値も得ておこうと計画した。

### 4月16日(土) 天候：曇のち晴

とにかく行動開始を早くするためと、小さな駐車スペースを確保するために早出を目指す。前日晚は早々に就寝し、当日午前0時に起床しマイカーで出発。現地では一番乗りになった。朝食や準備をしている間に、2台到着し次々と出発していった。自分も少し遅れて出発。

まずは500mほど急登が続き、続いて林道を併用する区間に。この辺りから暫く小刻みなアップダウンが続き標高が上がらず、時間と距離が長くなる要因だと言われている。標高1900mを超えたあたりからルート上に雪が目立ち始める。直前の台風ではほとんど降雪した様子はないが、締まってもいない。ちよくちよく踏み抜くうえ、凍結した部分もあり、不安定だ。早めにアイゼンを装着し、やや速度アップ。程なく先行者2名と遭遇。それぞれソロで、一人は仙丈ヶ岳を10回以上登頂しているベテラン、もう一人はほぼ雪山初心者でテントを持っていないという。何れも千丈小屋を目指している。彼らを追い抜いた先は雪が深く新しいトレースがない。なるべく凍結した部分を選んでも高確率で膝まで踏み抜く。最近暖かい日が多かったため表面以外は緩んでいるらしい。ベテランと互いにマイペースで距離を開けつつ適宜先頭交代するも、2700mの森林限界を超えるまでは踏み抜きと闘いながらのラッセルとなった。ここまでで十分に消耗しており、標高も高くなったせいか、小刻みの休憩と補給が欠かせなくなった。ベテランによれば、今年は残雪が多く手間取る部類だが、山頂と小屋への分岐点への登り以外に注意箇所はなく、日暮れまでには到着できるはずとのこと。そうこうしているうちに雲が消え、甲斐駒ヶ岳と鋸岳の豪快な稜線が間近に見えて大いに励まされた。分岐を通過し、程なく見えてきた小屋は僕ら3人だけの独占状態。中は暖かく、テント(本体のみ)を張って快適な夜を過ごした。トイレはいったん外に出て別のドアから入り直さねばならないが清潔そのもの。外は快晴で満月。ヘッドなしでも歩けるほどだった。(記: OT)

CT: 柏木登山口 6:00 - 松峰小屋 9:45 - 地藏岳 11:05 - 丸山谷ノ頭 12:22 - 2700m  
地点 15:00 - 分岐 17:00 - 千丈小屋 17:20



### 4月17日(日) 天候：曇

深夜から風が吹き始めた。トイレに出ると外は雪交じりの霧で視界不良。気温は思ったほど低くはない。予報では明け方少し晴れ間があるがあとは下り坂だという。昨夕ほどの眺望も御来光も期待できないため、早目の行動で悪天前の下山を目指すことにした。朝食は、食欲がいまいちなので予定していたフリーズドライ飯は食べず、糖分が多い行動食を暖かい飲み物で流し込んだ。

三人揃って小屋を後にし、分岐で荷物をデポして山頂までひと登り。軽いと本当に楽ちんだ。眺望なく風が強いので長居せず山頂を後にする。昨日よりは雪が締まっており、踏み抜きにくい、それでも踏み抜き、消耗していく。このルートの大さは下山時にもしっかり脚に効いてくる。既に筋肉痛だ。森林 限界以下になると所々陽が差し、北アルプスも見える。松峰小屋を過ぎたあたりで雪が無くなり、アイゼンを外す。標高が下がり、空気が濃くなったためか力が増してくる。時々小雨がぱらつく。退屈な林 道とルートを交互に繰り返す区間を過ぎればあとは急下降。ゴールした時には日差しがあり暖かだった。達成感は充分。帰途は忘れ物で諏訪から登山口近くの道の駅までの間をもう一往復するハプニングや、降雨に見舞われたものの、渋滞もなく無事帰還出来た。

今回のコースは何しろ長く、気力とスタミナが奪われた。トレーニングにはお勧めできるが、普通の山行として計画するには中間地点の松峰小屋で二泊しての空荷アタックの方が無難かもしれない。ただ、二泊するなら北沢峠があるので、ここを敢えて選ぶとすればマイカーで気軽にアプローチし、静かなロングルートを楽しみたい人向けと思われる。(記：OT)

CT: 千丈小屋 5:15 - 分岐 5:30 - 仙丈ヶ岳 5:50 - 分岐 6:10 - 2700m 地点 6:50 - 松峰小屋 9:46 - 穴沢ノ頭 11:05 - 林 道区間終点 12:05 - 柏木登山口 12:40

